㊲大淀川水系八重川津屋原沼周辺 津波・高潮対策事業と環境保全対策

受賞機関　国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

キーワード　津波・高潮対策、住民・行政・学識者との対話、干潟保全、環境保全

全建賞審査委員会の評価ポイント

津屋原沼を囲む高潮堤防の整備。生物の生息環境や景観・利活用も踏まえ地元関係者と勉強会や検討会など密に協議を行ったことにより、地元に愛される施設として整備を行うことができ、防護・利用・環境の観点で他地域の参考となる優良事例である点が評価された。

1. はじめに

大淀川は、宮崎県南西部に位置し、鹿児島、熊本、宮崎の３県にまたがる流域面積2,230㎢、幹川流路延長107㎞の一級河川である。津屋原沼は大淀川右岸0k200m付近に合流する八重川に接する沼であるが、同沼の背後地には、宮崎の空の玄関口である宮崎空港、病院、学校や民家が密集しており、津波・高潮対策は喫緊の課題であった。一方で、同沼は人為的要因で形成された潟湖であるものの、沼入り口には広大な干潟が形成されており、大淀川の感潮域を特徴づける重要種の生育・生息・繁殖の場となっていたことから、「地域が誇れる津屋原沼」を目標に地域の意見を活かしながら、自然環境の保全と創生を目指した川づくりを実施した。

2. 事業の概要

八重川合流点部の津波・高潮対策は、当初、合流点部に水門を設ける案や津屋原沼を水門で仕切る案等も検討されていたが、地域の意見を踏まえるため、事業計画策定段階であった平成25年から施工中を含む令和３年までに計55回もの住民・行政・学識者との対話を実施し、環境、利活用、防災、維持管理等多角的視点からの検討、意見交換を実施し、計画に反映させ、改修方式は沼を堤防で囲む案とした。併せて、水門周辺の掘削形状に変化をつけ水生植物が根付きやすくする等の工夫により、干潟の保全と同箇所に生息する希少種を含む動植物を保全するとともに、堤防は背面に張芝を施した緩傾斜構造とし、地域住民の利用しやすさと避難しやすさを追求した施設計画となった。

津波高潮堤防全景（上空より）

3. 事業の成果

津屋原沼は改修以前、環境的に重要な場所でありながら、一方で不法投棄も散見されていたが、整備後も希少生物が保全できていることに加え、近隣住民、わざわざ車で散策に来ている人や釣りなどを楽しんでいる人もあり、防災対策はもとより、多くの住民に喜んでもらえている施設となった。

また、工事前から実施した住民を含む関係者の勉強会、協議、検討会や希少植物やカニ等の生物の移植イベントなどが功を奏し、地域の方々の環境意識が向上したことにより、現在でも移植イベントが続いている点も特筆すべき点である。

夕暮時に堤防を散歩する住民（熊本大学皆川先生提供）

4. おわりに

津屋原沼の津波高潮対策では自然条件、社会的課題や地域の要請を検討会、勉強会、移植イベント等を通じ、関係者と意識を共有し、ともに考え、実践することで、「地域が誇れる津屋原沼」になったものと考えている。

今後も地域主導による愛護活動が継続し、津屋原沼が、地元の方々の故郷の心象風景となることを期待している。

賛助会員　パシフィックコンサルタンツ㈱、ゼニヤ海洋サービス㈱、八千代エンジニヤリング㈱、松本建設㈱、大淀開発㈱、吉原建設㈱、田村産業㈱、㈱協和製作所、日本ジタン㈱